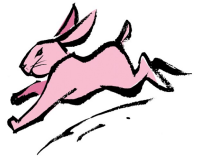


# 市民力かわら版

第21号

平成23年1月15日  
 編集/市民力かわら版編集委員会  
 発行/矢板市秘書政策室  
 電話：0287-43-1112  
 ファクス：0287-43-2292  
 Eメール：  
 yaita@city.yaita.tochigi.jp



## 中学生パワーで ともなりまつり大成功！

昨年十一月三日に行われた市民の日記念イベント「ともなりまつり」で、泉中学校の生徒が企画・運営に携わった「ともなりまつり」わくわく泉タイムを見た、ある市民の方が、「『中学生でもこんなことができるんだ！』と感心した」と話していました。中学生が巻き起こした旋風の裏に何かがあるのか、かわら版記者が小堀高秀校長にインタビューしました。

●なぜ泉中学生がともなりまつりに参加したのですか？  
 もともと生徒の多くがボランティアなどでも参加していましたが、よくよく調べてみると生徒の三分の二が自分の意志で参加していたことが、分かりました。また、見に行っていた生徒も、含めると九割の生徒が関わっています。それなら、総合的な学習の時間として



その作り方やスタッフの心をとる上で大切なことを教

取ったらどうだろうというの四月から総合的な学習の時間を使って準備を始め、ともなりまつりでの「わくわく泉タイム」を、そのまわく・発表の場とすることにしました。  
 ●生徒がかなり自主的に動いていたようですが…  
 福祉、ボランティア、食と産業、幼児保育、企画・総務などの各テーマで体験、発表することになり、その準備の中で、「どうせなら企画運営を全部自分たちでやろう」「メインキャスターもプロに教えてもらおう」などの案が出てきました。そこで、たまたま保護者にイベント会社をやっている、フリーのアナウンサーや、ある山崎セイコさんがいっしょに協力をお願いしました。全校の生徒で発声の練習をしたたり、笑顔の練習を



テーマごとに色分けされたおそろいのジャンパーを着て

わりました。総務担当の生徒たちは、たくさんのおスターを市内に張り、ゴミ処理の方法としてディスプレイランドのよくなやり方を考えたり、イベントを実施するに当たって各テーマの中に入らない隙間を埋めるため積極的に動いていたことに感心しました。

●生徒たちの反応は？  
 「知らない人に声をかけて話があった」「大変偉いね」「いろいろな声をかけた」「いろいろな声をかけた」「いろいろな声をかけた」などの感想が、終わったが、終わって学校に帰ってきたときの子どもたちの表情がすべてを物語っていますよ。この子どもたちの笑顔を見てください。私はこの写真が大好きです。  
 ●小さいからできないではなく小さいからできるへ  
 今回の「ともなりまつり」への参加は、ある程度規模の小さい学校だからできたのではないのでしょうか？  
 小規模校はともすれば活動が限られます。例えば吹奏楽などは矢中のように大きな規模の学校でないとなかなかできません。また、未知の人との関わりが少な模校のメリット、デメリットがあると思うのですが、小中一貫教育の中でそのメリットを生かしていきたいと思っています。  
 小さいからできないではなく、小さいからできるというふうに一見弱みに見えたいと思いません。(0)